

園名： 中央区立明石幼稚園 所在地： 中央区明石町1-15
 園長名： 佐藤 恵
 園児数： 126名 学級数： 3歳児-2 4歳児-2 5歳児-2 計6学級
 教職員： 園長・幼稚園主任・担任(6)・特別支援教育補佐員(4)・用務主事(1)・行政補助員(1)
 ・預かり保育士(6)

★回収率は今年度も100%となり、本園の幼稚園教育に寄せる関心と期待の高さが伺える。

1 重点目標の達成状況及び取組状況

*** 評価基準**

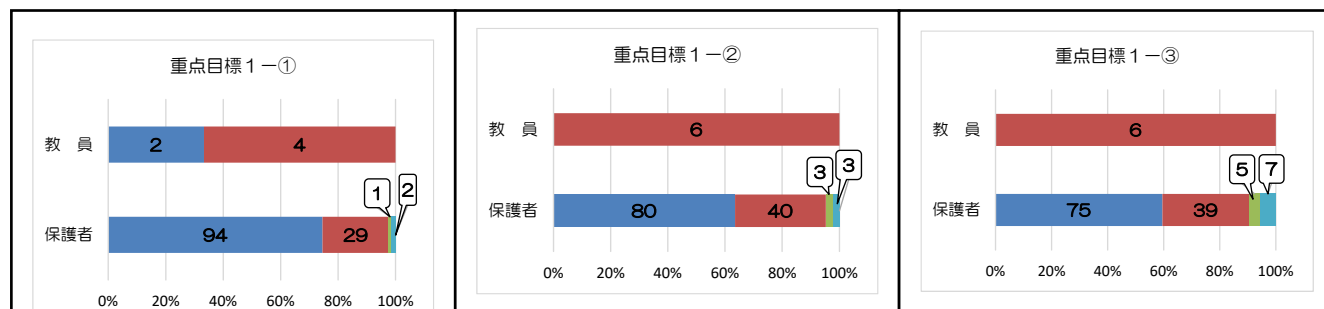
教員 評価 保護者 評価	A 十分に達成している A よくあてはまる	B 達成している B あてはまる
	C 改善を要する C あまりあてはまらない	D 緊急に改善を要する D あてはまらない

重点目標1 様々な運動遊びに継続的に取り組み、体力向上を図る

<評価項目> 運動遊びへの意欲の喚起/運動技能の向上・挑戦する姿勢を促す援助の工夫

<評価指標>

- ① 運動遊びに喜んで取り組んでいる。
- ② 運動遊具を活用しながら、いろいろな動きを体験している。
- ③ 自分なりの目標をもって繰り返しやってみようとする。



◆重点目標1については、約94%の保護者から「よくあてはまる」「あてはまる」の回答をいただき、目標はほぼ達成できたと考える。

遊戯室、廊下、なかよし広場、玄関ホールなど活動の場を広げていく中で可動性の遊具を活用して様々な動きを体験できるよう環境設定の工夫に努めた。毎日の昼食後の校庭、体育館の使用が可能な時間を生かし戸外遊び、運動遊びの時間と場を保障し、その中で固定遊具に挑戦したり、ルールのある運動遊びを行ったりすることを継続的、計画的に取り入れることができた。

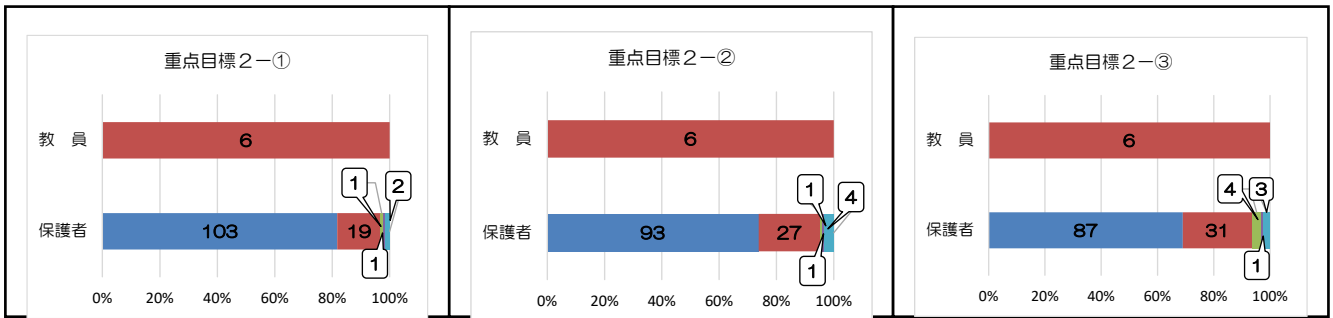
さらに、個人差に応じた、援助、スモールステップの環境設定を工夫し、皆が喜んで運動遊びに取り組めるようにしたい。

重点目標2 幼児の発達を促す園内環境の工夫を図り、夢中になって遊ぶ幼児を育成する

<評価項目> 夢中になって遊ぶ姿を引き出す環境設定の工夫/友達と協力する態度の育成

<評価指標>

- ① 自分なりに試したり工夫したりして、じっくり遊び込んでいる。
- ② 遊びに必要なものを作ったり、友達と言葉で伝え合ったりしながら遊んでいる。
- ③ 友達と力を合わせて、共通の目的をもって活動に取り組み、友達と協力する楽しさやイメージを実現する達成感を味わっている。



◆重点目標2についても、約95%の保護者から「よくあてはまる」「あてはまる」の回答をいただき、目標はほぼ達成できたと考える。

園内研究のサブテーマ「幼児の発達を促す環境の工夫」を目指して研究を進めてきた成果と昨年度の評価を受け、保育室、廊下、遊戯室、体育館などの活用を計画的に改善してきたことが実績につながった。特に、年長組の日々の遊びの場を保育室だけでなく遊戯室へと広げたことで大型遊具も取り入れた遊びが充実し、2階の廊下の環境設定を見直したことで年中組の活動の場がより保障され、3学期に向けてダイナミックな遊びを引き出すことにつながった。

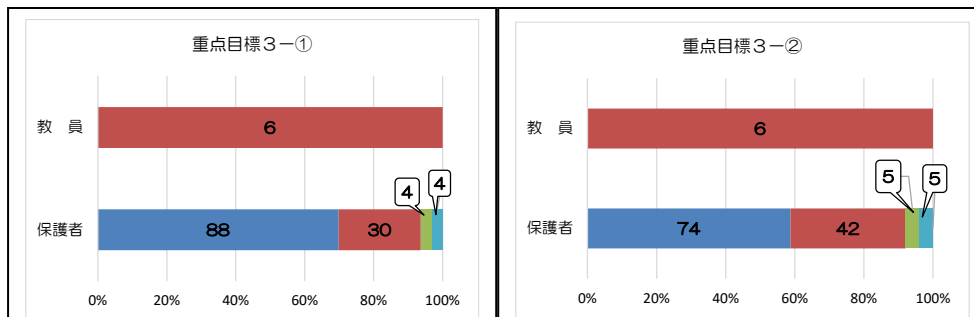
一方で遊戯室を預かり保育室と兼用している状況の中、継続的な遊びの場が保障されるような工夫や、保育の準備に一層の見直しをもっていきたい。

重点目標3 異年齢交流や様々な人との関わりを通して、思いやりの心を育む

<評価項目> 異年齢交流への計画的な取り組み／感謝の表現の喚起

<評価指標>

- ① わくわくタイムを通して、異年齢児やペアの幼児との関わり、思いやりの心や互いに理解し合おうとする態度が育まれている。
- ② 開園90周年を祝う活動や行事を通して、様々な人への感謝の気持ち、明石幼稚園を大切に思う気持ちが育まれている。



◆重点目標3についても、約93%の保護者から「よくあてはまる」「あてはまる」の回答をいただいた。

「あまりあてはまらない」「よくわからない」の回答が約7%となった原因としては、コロナ禍の中、異年齢交流「わくわくタイム」を、可能な範囲で実施してきた状況や内容について保護者への発信が十分にできていなかったと考えられる。また、行事の機会を通して、周年を祝う活動を行ったが、行事の時だけでなく継続して取り組む意識を高めることが必要であった。

また、重点目標の評価指標を保護者が評価しやすい表記にすることも改善につながるのではと考察した。

2 重点目標以外の自己評価・全体評価における達成状況及び達成のための取組状況

★新型コロナウイルス感染症予防対策のため、今年度も全方位的な評価として教員11項目、全体の評価として保護者14項目での評価を行った。

＜教員の自己評価＞

- ◆「コロナ禍における保護者・学校間の連携」「基本的な生活習慣・規範意識」などについて改善点を検討する。

コロナ禍の中、保育参観、保育参加、PTA活動、保護者有志活動などの機会が減少する中で、学年便り・学級便り、個人面談、降園時の連絡、連絡ボード、子ども安全・安心メール、ホームページなどを活用して情報発信に努めた。しかし、十分に伝わらないこともあり、繰り返し伝えたり、コミュニケーションを増やしたりして理解を得られるようにしていくことが必要である。これらは下記の通り、保護者による全体評価の結果にも表れており、両者で課題と捉えている。教員間で情報共有を深め、連携した保護者への対応に取り組んでいく。併設小学校との情報共有を積極的に行い、安全な幼小の連携につなげていく。また、来年度に導入されるシステムを活用し、わかりやすい内容やペーパーレスの手立てを工夫していくことも検討している。

基本的な生活習慣の定着については、家庭との連携が必要であることを伝えながら保護者と共有していく。

研修についてはリモート研修、園内伝達や研究紀要を活用し、資質の向上につなげていきたい。

＜保護者による全体評価＞

- ◆すべての項目で「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が90%を越える高い評価をいただいた。特に「園舎内外の清掃・整理などの環境整備が行き届いている」では「よくあてはまる」が80%超、4項目では「よくあてはまる」が70%超の評価となっている。

一方、2項目で「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が5%弱の回答があり、「わからない」を加えると8項目で5%弱の回答があった。

その中で、相談しやすく、親身になった対応や家庭への連絡や情報の提供について「あまりあてはまらない」などの回答が約8%となった。

- ◆今年度も、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、その都度柔軟に対応していくようにした。それに伴い、行事や活動の時期や内容、形態などについて安全・安心を第一に考えて変更することとなった。園公開、学年保護者会、学級懇談会、HOIKUトークデーなどの開催時間や規模、内容に配慮が必要となった中での、教育活動や行事についての報告、情報発信となったためと思われる。

また、「わからない」の回答について、園教育の内容を状況に応じて伝える工夫と同時に一人一人の保護者に丁寧な説明を行なっていくことも引き続きおこなっていききたい。

- ◆個別意見について、多くの記述が寄せられた。主に、コロナ禍による園生活の変化の中での園公開・弁当時の対応・冬季の服装・PTA活動や、教職員の配置が十分でないこと、などであった。一つ一つの意見を検討し、個別に説明をしたり学年保護者会の機会を通したりして保護者に直接回答を行なう。

また、今年度の新型コロナウイルス感染症予防対策の中での教育活動に対して、多くの励ましや感謝、教員の保護者や園児への丁寧、親身なかかわり、園生活での多様なかわりや経験、様々な便りへの期待などについても意見をいただいた。励みとし、今後も幼稚園への信頼に応えられるよう、より豊かな明石幼稚園の教育活動となるよう努めていく。

3 今後の改善方策

- ◆教員の自己評価であげたように園の教育について、具体的、丁寧に保護者に伝えていき、その手立てを工夫していく。

学級便り・学年便りなどで園内の生活・活動についてお知らせする際もその内容に経験していることや育てたいことを重点目標と関連付けて明確に伝えていくようにする。

- ◆コロナ禍での園教育が3年目となり、これまでの経験を生かし、可能な方法を工夫し、その中で幼児が園生活の中で発達に必要な経験を積み重ねていけるよう、教員間で十分な検討を重ね、行事や活動のねらいを明確にし、組織的な取り組みが必要である。

来年度は、中央区研究奨励園3年次となり研究発表を行う。これまでの研究成果を生かすとともに、奨励園ならではの研究、研修の機会を有効に活用し、一人一人の教員の指導力向上に努め、遊びや活動の充実につなげる。

